

神の次のご計画 エズラ 2:59-63

1. 次の人々は、テル・メラフ、テル・ハルシャ、ケルブ、アダン、イメルから引き揚げて来たが、自分たちの先祖の家系と血統がイスラエル人であったかどうかを、証明することができなかった。すなわち、デラヤ族、トビヤ族、ネコダ族、六百五十二名。(2:59-60)
 - a. 先週はエズラ記1章で、ペルシャの王がバビロンを征服後、イスラエルの民にエルサレムに戻り神殿を建てるように文書での許可を出したことを学んだ。これはエレミヤによって預言され、ダニエルによって公にされ、イザヤが預言した通りクロス王によって実行された。
 - b. 神殿再建の約束の時が来て、神によってその霊を奮い立たされた者は、バビロンで慣れ親しみ築き上げたものを捨て神のご計画の次の段階に参加するべく立ち上がった。
 - c. 私たちはどうしたら神のご計画の次の段階の入口にさしかかっていることを見分けることができるだろう？ どうしたら神のご計画の次の段階に参加できるだろう？ そしてもしそれを見逃してしまったらどうなるだろう？
 - d. 文書による証と霊を奮い立たされることによって神の新しいご計画を知り、バビロン脱出に加わった者もいたが、彼らの中には自分たちの先祖の家系と血統を証明することができず神のご計画の恩恵にあずかることができなかった者もいた。
2. 祭司の子孫のうちでは、ホバヤ族、コツ族、バルジライ族。—このバルジライは、ギルアデ人バルジライの娘のひとりをもとに妻にめとったので、その名をもって呼ばれていた— これらの人々は、自分たちの系図書きを捜してみたが、見つからなかったため、彼らは祭司職を果たす資格がない者とされた。」(2:61-62)
 - a. 系図書きがなく家系を証明できなかった者は先祖に分配された土地を相続することができなかった。また祭司職の系図を証明できないものは祭司職を果たす資格がない者とされた。
 - b. 神が最初にくださるものは、時として私たちが得たものではないもの、あるいは受ける資格がないもの、往々にしてその時には取るに足らないように見えるが、私たちがよく管理をすることによって後になってすばらしい価値のあるものになる。このように重要でないように見える神からのギフトを浪費したり正しく取り扱わなかったり売ってしまったり交換してしまったりすると、私たちの人生の次のステージで資格がない者とされてしまう可能性がある。
 - c. 今日の聖書箇所は身分の証明ができないため財産を相続できなかったり、召命を果たすことができなかった者の記録である。
3. それで、総督は、ウリムとトンミムを使える祭司が起こるまでは最も聖なるものを食べてはならない、と命じた。(2:63)
 - a. しかしそこには恵みがある。ここではウリムとトンミムを通しての恵みであった。ただそれらが使え継承権を認められた祭司がいたかどうかはわからない。
 - b. ウリムとトンミムは神殿に戻らなかった3つのもののうちの1つだとラビの間で言われている。他の2つは契約の箱とシャカイナグローリー。ウリムとトンミムは、第一神殿で主の助言を求める時に使う重要な手段であった。
 - c. 今を生きる私たちには祭司、預言者、ウリムとトンミムは必要ない。イエス様ご自身が神と人間を隔てていた幕を裂き、私たちが神に直接お会いできるようにされたからである。